

平成 21 年 6 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2005～2008 年度
 課題番号：17202016
 研究課題名（和文） 日本前近代史料の国際的利用環境構築の研究
 研究課題名（英文） Research for Building an Environment to Enhance International Use of Premodern Japanese Historical Sources
 研究代表者
 石上 英一（Ishigami, Eiichi）
 東京大学・情報学環・教授
 研究者番号：40092134

研究成果の概要：

特別推進研究（COE）「前近代日本史料の構造と情報資源化の研究」（平成 12 - 16 年度）の成果の上に、日本前近代史料の国際的利用環境の構築を行った。特に、欧文日本古代史料解題辞典オンライン版公開、応答型翻訳支援システム改良とグロッサリー充実、平安遺文未収除外文書のデータベース化、天皇皇族実録網文データ作成、米国とスウェーデンにおける 3 回の漢文ワークショップでの古代・中世史料翻訳の共同研究、などの成果を得た。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 17 年度	9,600,000	2,880,000	12,480,000
平成 18 年度	9,900,000	2,970,000	12,870,000
平成 19 年度	9,200,000	2,760,000	11,960,000
平成 20 年度	8,200,000	2,460,000	10,660,000
年度			
総計	36,900,000	11,070,000	47,970,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史、前近代史料、日本史グロッサリー、応答型翻訳支援システム、日本前近代史料の国際的利用、歴史情報、平安遺文除外未収文書データベース、欧文日本古代史料解題辞典オンライン版

1. 研究開始当初の背景

東京大学史料編纂所の歴史情報研究グループは、文部科学省中核的研究拠点形成プログラム（平成 15 年度より特別推進研究（COE））「前近代日本史料の構造と情報資源化の研究」（平成 12 - 16 年度。研究代表者：石上英一。研究拠点名「前近代日本の史料遺産プロジェクト」Japan Memory Project:JMP）を実施し、日本前近代史料（古代 - 明治維新时期）に関する歴史情報研究拠点形成の研究を推進した。この研究成果の上に、前近代日本史料とその統合的データベースシステムのさらに高度

化した国際的利用環境を構築するために、科学研究費補助金基盤研究（A）「日本前近代史料の国際的利用環境構築の研究」（平成 17 - 20 年度）により研究を推進することにした。

2. 研究の目的

(1) 前近代日本史料及びその統合データベースを欧米諸国で研究・教育に効率的に使用できるようにする。
 (2) 国際的な日本前近代史料研究の基礎となる日本史グロッサリー、史料データベースの充実を図る。

3. 研究の方法

(1) 国際的協同研究の実施

「前近代日本の史料遺産プロジェクト」により学術交流関係を深めた欧米の研究者と協同して古代中世史料の解読と英文翻訳を行う漢文ワークショップを実施する。

「前近代日本の史料遺産プロジェクト」が支援して作成された欧文日本古代史料解題辞典オンライン版のデータベース公開を行う。

国際的な研究集会等において、日本前近代史料研究の成果を報告する。

(2) 東京大学史料編纂所の歴史情報データベースシステム (SHIPS) を利用して日本前近代史料の国際的利用の推進のためのデータベースのコンテンツ作成研究を行う。

日本史料を構文解析し英仏独語のグロッサリーを表示する応答型翻訳支援システムの改良 (構文解析・検索機能改良、オンライン・グロッサリー登録機能開発) とグロッサリーの充実を行う。

古代史料の高度利用環境整備のために、平安遺文除外未収文書をデータ化し、平安遺文フルテキストデータベースから公開する。

行書体・草書体で書かれた日本史料の解読を容易にするための電子くずし字字典について、国際的な研究環境を考慮した利用方法の高度化を行う。

国際的な日本近世研究の基盤整備のために、近世編年史料データベースの柱となる天皇皇族実録の網文データ整備と検索機能改良を行う。

大日本史料総合データベースの中世部分のデータ整備 (「史料稿本」画像とのリンク) を行い、大日本史料未刊部分の編年史料研究の環境を整備する。

4. 研究成果

(1) 研究成果報告書の刊行

2009年3月、「東京大学史料編纂所研究成果報告2008-3」として『日本前近代史料の国際的利用環境構築の研究』(全358頁)を刊行した(以下、「報告書」と称す)

(2) 国際的協同研究の成果

2007年7月16日 - 8月10日、米国・南カリフォルニア大学 (USC) 歴史学科 Joan Piggott 教授が開催した 'The 2007 Summer Kambun Workshop' に研究代表者石上が共同研究者として参加し、USC 及び米国諸大学の若手研究者と平安時代史料の解読と翻訳の研究を行った。翻訳成果は、報告書及び USC の Kambun Workshop のホームページから公開されている。

2008年7月14日 - 8月8日、米国・南カ

リフォルニア大学 (USC) 歴史学科 Joan Piggott 教授が開催した 'The 2007 Summer Kambun Workshop' に研究分担者遠藤が共同研究者として参加し、USC 及び米国諸大学の若手研究者と平安鎌倉時代史料の解読と翻訳の研究を行った。翻訳成果は、報告書及び USC の Kambun Workshop のホームページから公開されている。

2008年7月7日 - 25日、スウェーデン・王立工科大学 (KTH) 言語コミュニケーション学科 Yoko Takau-Drobin 講師が開催した 'The 1st European Kanbun Workshop' に研究分担者石上が共同研究者として参加し、ロンドン大学 Timon Screech 教授や英国・ドイツ・エストニア等の若手研究者と平安時代史料の解読と翻訳の研究を行った。翻訳成果は、報告書に掲載されている。

(2) 日本前近代史料の国際的利用の推進のためのデータベースのコンテンツ作成研究

データベースは、東京大学史料編纂所歴史情報処理システムから公開している。

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/>

「欧文日本古代史料解題辞典」(Dictionary of Sources of Classical Japan (DSCJ) /Dictionnaire des sources du Japon classique Dictionary) のオンライン版のデータベース公開を平成17年9月に公開した。

応答型翻訳支援システムの改良を行った。
1. 平成17年度には、語彙多重検索機能、構文解析によらないグロッサリーの直接全文・語彙検索機能を整備した。

2. 平成20年度には、セキュリティ機能強化版オンライン・グロッサリー登録システムの開発を行った。

3. グロッサリーの整備・補充と欧米刊行研究書のグロッサリーの利用許諾手続き、グロッサリーの整備 (データ補充、年号データ入力等) を行った。USC の漢文ワークショップで作成されたグロッサリーは、応答型翻訳支援システムのシステム辞書に登録された。

平成17年度、大日本史料データベースに関して、中世編年史料網文データの史料稿本画像とのリンクの整備を行った。

『平安遺文』除外文書の情報化について、平成17 - 20年度、新訂増補国史大系所収の類聚三代格・弘仁格抄・延暦交替式・貞観交替式・新抄格勅符抄・法曹類林・類聚符宣抄・続左丞抄・別聚符宣抄・政事要略・朝野群載・本朝文粹・続本朝文粹の総計7258件の全文データを作成した。このうち、類聚三代格・弘仁格抄・延暦交替式・貞観交替式・新抄格勅符抄・類聚符宣抄・別聚符宣抄・政事要略は平成15年11月に出版社との覚書を取り交わして、平安遺文フルテキストデータベースから公開した。残りは平成21年夏に公開の予定である。総目録は、報告書に掲載した。

平安遺文未収文書の収集については、平成17 - 19年度に『続群書類従』所収平安時代文書672件を収集して情報化し、平成17 - 20年度に『大日本史料』第一編6 - 24・補遺3・4、第二編17 - 29から未収文書を収集し情報化し、平安遺文フルテキストデータベースから公開した。データ一覧は報告書に掲載した。

天皇皇族実録綱文データベースについては、平成17 - 19年度に綱文データの入力を行い、平成20年度に天皇皇族実録データ公開に対応した近世編年データベース検索画面の改良を行い、近世編年データベースから公開した。報告書参照。

電子くずし字字典データベースの高度化については、平成17 - 19年度に、「代表的文字画像」の選定作業を行い、同データベースの利用方法の高度化をはかった。報告書参照。

(4)日本前近代史料の国際的利用のための各種研究集会の開催と報告

国際的利用環境構築の意見交換・広報のために、次の会議を開催した。

1. 2006年4月7日、米国・アジア研究協会(AAS)2006年大会の関連会議として、'Japan Memory Project of Historiographical Institute'を開催した。

2. 2008年4月5日、米国・アジア研究協会(AAS)2008年大会の関連会議として、'Japan Memory Project and Kambun Workshop'を開催した。

国際研究集会「正倉院文書の国際的・学際的利用」の開催

平成19年11月10日、SHIPSの奈良時代古文書フルテキストDBの国際的利用促進のため、韓国・高麗大学宋浣範研究教授、フランス・高等研究院Charlotte Von Verschuer教授を招き、「正倉院文書の国際的・学際的利用」を、正倉院文書研究会・正倉院文書データベース作成委員会・21世紀COE「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」と共同で大阪市立大学交流センターで開催した。

国際学会・国際研究集会で、研究成果の報告を行った。(学会発表の項参照)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 15件)

1 石上 英一「日本前近代史料の整理調査と公開」『東京大学史料編纂所研究成果報告2008-3 日本前近代史料の国際的利用環境構築の研究』、査読無、2009年、305 - 325ページ

2 石上 英一 'Investigation, collection and database development of pre-modern historical materials in Japan' 『東京大学

史料編纂所研究成果報告2008-3 日本前近代史料の国際的利用環境構築の研究』、査読無、2009年、326 - 343ページ

3 石上 英一「8世紀の日本における東大寺と正倉院文書」『東京大学史料編纂所研究成果報告2008-3 日本前近代史料の国際的利用環境構築の研究』、査読無、2009年、344 - 349ページ

4 石上 英一 'Tôdaiji temple and Shôsôn documents in the 8th century of Japan' 『東京大学史料編纂所研究成果報告2008-3 日本前近代史料の国際的利用環境構築の研究』、査読無、2009年、350 - 358ページ

5 松井 洋子「長崎出島と異国女性 - 「外国婦人の入国禁止」再考 - 」『史学雑誌』118巻2号、査読有、2009年、1 - 36頁

6 林 讓 'Les paraphes calligraphies(kao, shohan) et les paraphes imprimés(oshide, kao-in) (花押(書判)と押手(花押印))' "L'écriture reinventée(文字文化の再創造)", Les Indes savanates, Paris, 査読無、2007年、63 - 80頁

7 松井 洋子「江戸時代出島における日蘭関係の担い手たち」『東洋文化研究所叢刊』ユーラシアにおける文化の交流と転変』21号、査読無、2007年、147 - 161ページ

8 石上 英一「日本における前近代史料資源及びその開発と利用」『東アジア諸国の史料資源と開発利用』第3回東アジア史料研究編纂機関国際学術会議報告集、中国社会科学近代史研究所、査読無、2006年、中国語 1 - 15ページ、日本語 16 - 29ページ

9 石上 英一「奄美群島編年史料集稿 寛永年間編」『東京大学史料編纂所研究紀要』17号、査読無、2006年、105 - 121ページ

10 松澤 克行「『天皇皇族実録』の編修事業について」『史境』53号、査読有、2006年、1 - 15ページ

11 井上 聡・臼井佐知子・高松洋一・新江利彦・相原佳之「デジタル化資料はオリジナル資料をこえられるか」『史資料ハブ』9号、2006年、53 - 79ページ

12 石上 英一「元和九年大嶋置目の諸本の再検討」『黎明館調査研究報告』19集、査読無、2006年、133 - 161ページ

13 林 讓「花押と筆跡研究の可能性 花押類似検索システムとその課題」『科学』76巻2号、査読無、2006年、183 - 186ページ

14 石上 英一「日本における古典籍の整理事業の現況と展望」『民族文化』28輯、大韓民国・民族文化推進会、査読無、2005年、日本語 43 - 82ページ、韓国語 83 - 126ページ

15 石上 英一「古代日本史料の世界」『古代文字史料の中心性と周縁性』、春風社、査読無、2005年、22 - 67ページ

〔学会発表〕(計 6件)

- 1 松井 洋子 'What distinguished foreigners and how were they treated'、第12回ヨーロッパ日本学研究会大会、2008年9月21日、イタリア・レッツェ
- 2 石上 英一 'Investigation, collection and database development of pre-modern historical materials in Japan'、オーストラリア日本学研究会 2007年大会、2007年7月4日、オーストラリア・キャンベラ
- 3 石上 英一 '日本前近代史料の整理・調査と公開'、"The Shosoin Monjo Collection and Todaiji Temple in the 8th Century"、イリノイ大学東アジア言語文化学科、2007年3月26・27日、米国・イリノイ州・シャンペーン
- 4 石上 英一 '日本における前近代史料資源及びその開発と利用'、第3回東アジア史料研究編纂機関国際学術会議、2006年11月11日、中華人民共和国・武漢市
- 5 石上 英一 'Tôdaiji temple and Shôsôin documents in the 8th century of Japan'、ペナレスヒンドゥー大学仏教アジア研究所シンポジウム 'India on the Silk Road' 2006年2月27日、インド、ペナレス
- 6 石上 英一 '日本における古典籍の整理事業の現況と展望'、民族文化推進会シンポジウム '東アジア各国における古典籍整理事業の現況と課題'、2005年11月2日、大韓民国・ソウル

〔図書〕(計 2件)

- 1 石上 英一 (編) 東京大学史料編纂所、『東京大学史料編纂所研究成果報告 2008-3 日本前近代史料の国際的利用環境構築の研究』、2009年、358ページ
- 2 遠藤 基郎、東京大学出版会、『中世王権と王朝儀礼』、2008年、440ページ

〔その他〕

以下のデータベースは、東京大学史料編纂所データベース SHIPS for インターネット (<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/>) から公開されている。

応答型翻訳支援システム

欧文日本古代史料解題辞典データベース

平安遺文フルテキストデータベース

平安遺文未収文書・除外文書データ収録

大日本史料総合データベース

近世編年史料データベース

天皇皇族実録網文データ収録

電子くずし字字典データベース

石上 英一、東京大学・情報学環・教授、40092134

(2)研究分担者

遠藤 基郎、東京大学・史料編纂所・助授、40251475

松澤 克行、東京大学・史料編纂所・助教、40282529

(3)連携研究者

林 謙、東京大学・史料編纂所・教授、00164971

横山 伊徳、東京大学・史料編纂所・教授、90143536

山家 浩樹、東京大学・史料編纂所・教授、60191467

鶴田 啓、東京大学・史料編纂所・教授、10172066

松井 洋子、東京大学・史料編纂所・教授、00181686

小宮 木代良、東京大学・史料編纂所・准教授、90186809

井上 聡、東京大学・史料編纂所・助教、20302656

西田 友広、東京大学・史料編纂所・助教、90376640

6. 研究組織

(1)研究代表者